

19  
ダビデ  
聖徒伝 103

# 「永遠の契約に 立てられて」

サムエル記第二 23～24章

ダビデの最後の言葉

Shikaoichurch.com

# アウトライン

0. イントロダクション

I. ダビデの勇士たち 23章8～39節

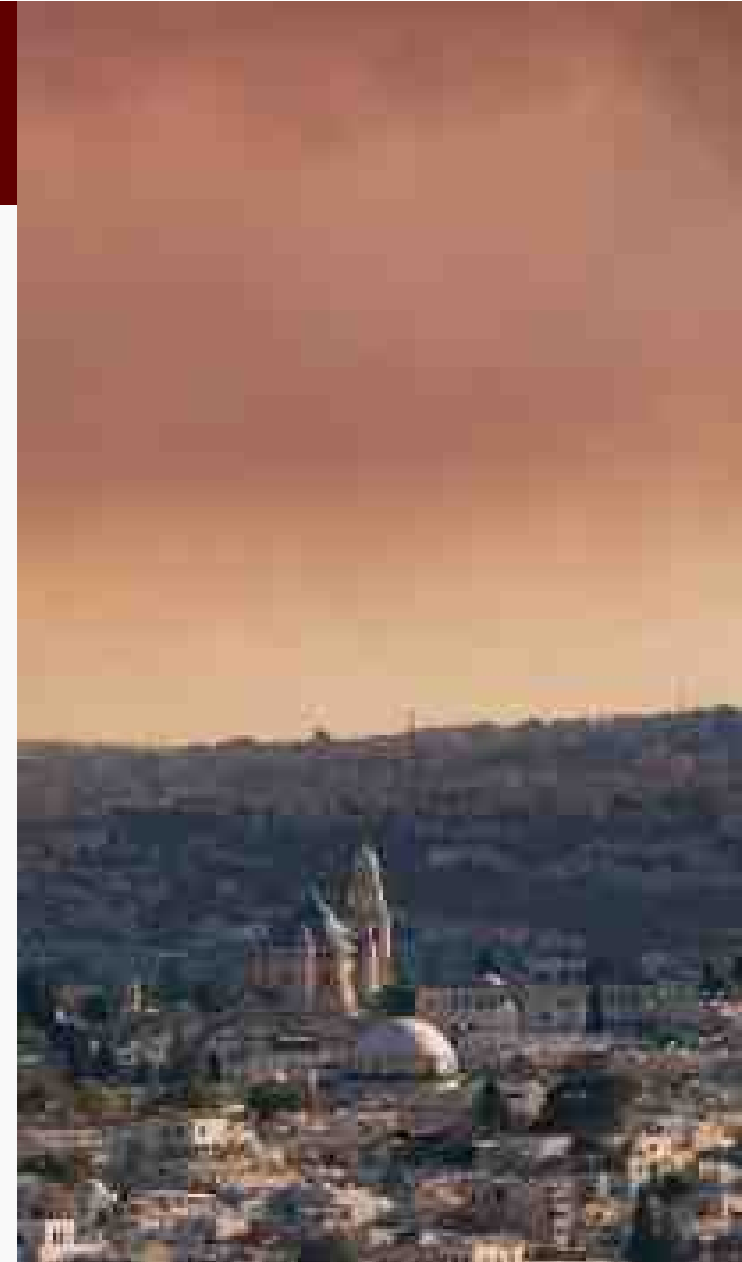
II. ダビデの過ち 神殿の備え 24章

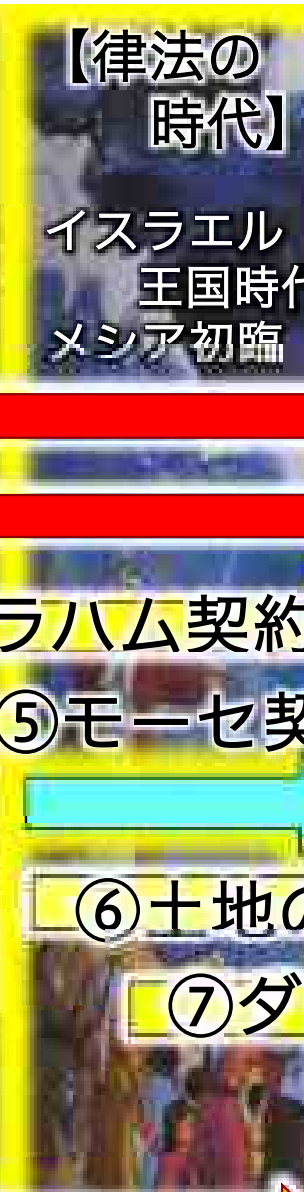
III. ダビデの最後の言葉

聖書朗読：サムエル記 II 23章1～7節

IV. まとめと適用

覚悟して神の愛を味わいつくそう





【無垢の時代】

天地創造

【良心の時代】

墮罪  
~大洪水

【人類統治の時代】

バベルの塔事件

【約束の時代】

アブラハム  
~ヤコブ

【律法の時代】

イスラエル  
王国時代  
メシア初臨

【恵みの時代】

聖霊降臨  
世界宣教  
メシア再臨

【御国の時代】

千年王国  
大審判  
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

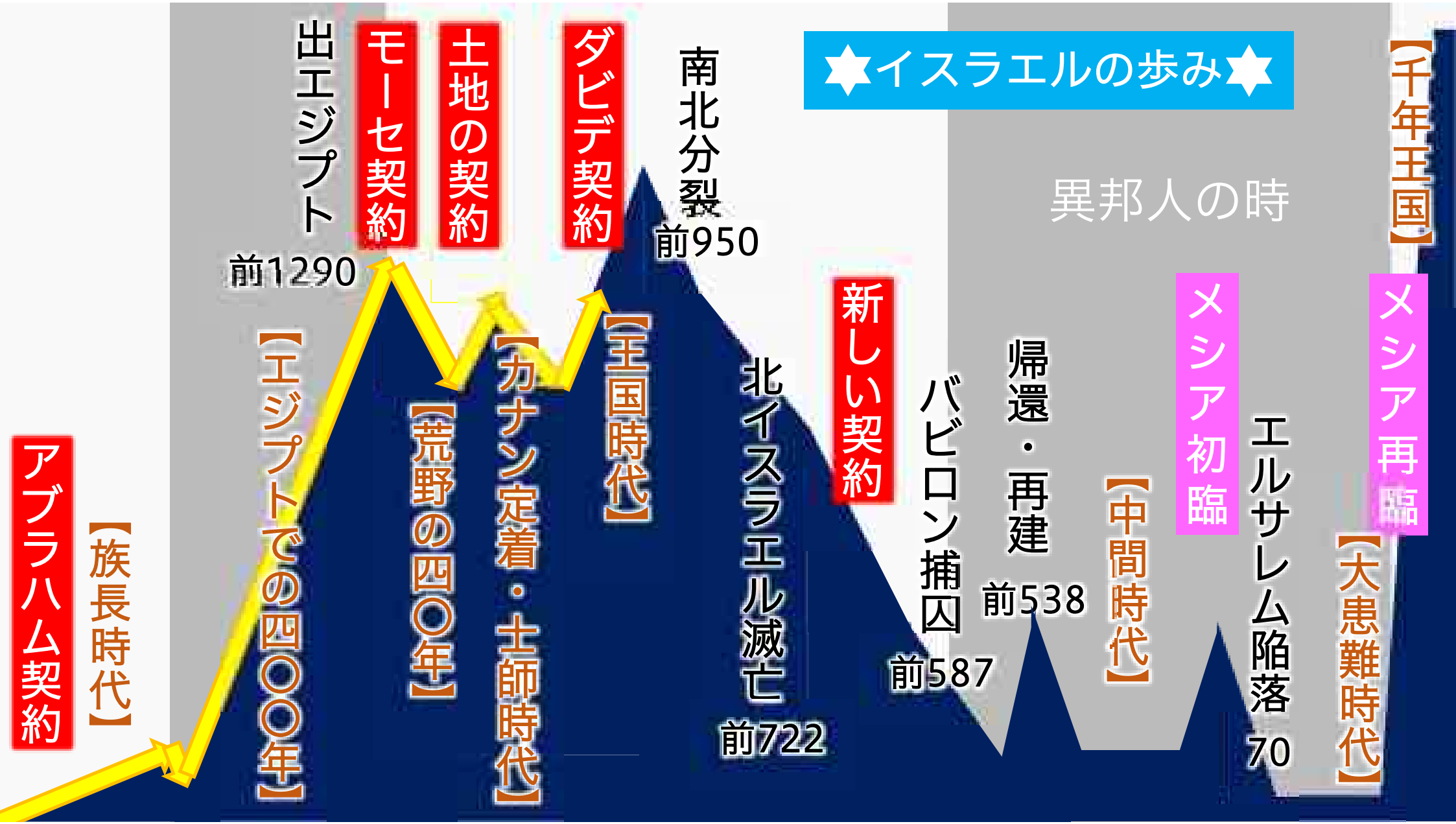
どの時代も  
神の約束が礎にある

過去

現在

未来

★イスラエルの歩み★



サムエル記 第二

ダビデ王の治世の正と負

ユダの王	1 : 1~27	サウルとヨナタンの死
	2 : 1~4:12	ユダの王に即位
イスラエルの王	5:1~25	エルサレム遷都 全イスラエルの王に
	6:1~25	神の箱が都に上る
	7:1~29	<b>ダビデ契約</b> の締結
	8:1~9:11	ダビデの治世 領土の拡大・義と憐れみ
失墜する 王の権威	10:1~12:31	アンモンとの戦い ダビデの過ちと悔い改め
	13:1~14:33	悪化する家族問題
	15:1~18:32	アブサロムの謀反 ダビデの都落ち
	19:1~20:26	ダビデの帰還
追記	21:1~22	サウルの氏族の末路・戦士ダビデの引退
	22:1~51	ダビデの歌
	23:1~39	ダビデの遺言 勇士たちの記録
	24:1~25	人口調査 ダビデの罪と罰

## 【ダビデの足取り】

■ダビデ王は、エルサレムを都とし神の箱を担ぎ上げた。神は、ダビデの王家を永遠に守り導き、子孫から、メシアが誕生することを告げられた。→**ダビデ契約**

■周辺国の平定間近のある時、ダビデは、**バテ・シェバ**と姦淫を犯し、夫ウリヤを戦死に見せかけ殺害した。

■息子**アブサロム**に王権を奪われ、ダビデは都落ち。アブサロムがヨアブに討たれた後に、王座に復帰した。

■力の衰えにより、ダビデは戦いの一線から退いた。





# Ⅰ. **ダビデの勇士たち**

サムエルⅡ 23章8～39節

## 【三勇士・ヨシャブ】 II サムエル23:8

ダビデの勇士たちの名は次のとおりである。補佐官のかしら、**タハクモニ**人ヨシェブ・バシエベテ\*。彼は槍を振るって一度に八百人を刺し殺した\*。

\*尋常でない活躍は、神の助けゆえ。

\*別名・ハクモニの子ヤショブアム。(I 歴11:11)

ザブディエルの子ヤショブアム(I 歴27:2)

→ヤショブアブ(=安息の家)。まさに守り手。

■ダビデが組織したイスラエルの12分団が、交代で軍の任務に。一分団2万5千人。

→その第一団長がヨシェブ。



ダビデに仕える  
サムソン級の戦士たち



## 【三勇士・エルアザル】 II サムエル23:9

彼の次は、アホアハ人ドドの子エルアザル\*。ダビデにつく三勇士の一人であった。彼らがペリシテ人をそしたとき、ペリシテ人は戦うためにそこに集まった。イスラエル人は退いたが、彼は立ち上がり、自分の手が疲れて、手が剣にくっつくまでにペリシテ人を討った。【主】はその日、大勝利をもたらされた。兵たちが彼のところに引き返して来たのは、ただ、はぎ取るためであった。

\*ベニヤミン族。エルアザル(=神が助けられる)。  
別名ドダイ。第二分団長( I 歴27:2)。



## 【三勇士・シャンマ】 II サムエル23:11~12

彼の次はアラル人アゲの子シャンマ\*。ペリシテ人が隊をなして集まったとき、そこにはレンズ豆が豊かに実った一つの畑があった。兵はペリシテ人の前から逃げたが、彼はその畑の真ん中に踏みとどまってこれを守り、ペリシテ人を討った。【主】は大勝利をもたらされた。

\*アラル(=ハラル)、“山あいの人々” マナセ族。

アゲ(=私が増やす)、シャンマ(=荒野)

➡シャンマ(荒野)が、レンズ豆畑を守った!!



## 【三勇士の武勇伝】 II サムエル23:13～15

三十人のかしらのうちのこの三人は、刈り入れのころ\* アドラムの洞穴にいるダビデのところへ下って来た。ペリシテ人の一隊は、レファイムの谷間に陣を敷いていた。

そのときダビデは要害にいて、ペリシテ人の先陣はそのときベツレヘムにいた。ダビデは切に望んで、「だれかが私に、ベツレヘムの門にある井戸の水を飲ませてくれたらよいのだが」と言った。

\*4～5月頃。収穫期は略奪者との戦いの時でもある。

■戦いは劣勢。ベツレヘムはペリシテに奪われていた。



## 【三勇士の武勇伝】 II サムエル23:16

三人の勇士はペリシテ人の陣営を突き破って、ベツレヘムの門にある井戸から水を汲み、それを携えてダビデのところに持って来た。しかしダビデはそれを飲もうとはせず、それを【主】の前に注いで、こう言った。「【主】よ。そんなことをするなど、私には絶対にできません。これは、いのちをかけて行って来た人たちの血ではありませんか。」彼はそれを飲もうとはしなかった。三勇士は、そのようなことまでしたのである。



## 【アビシャイ】 Ⅱサムエル23:18～19

さて、ツェルヤの子ヨアブの兄弟アビシャイは三十人のかしらであった。彼は槍を振るって三百人を刺し殺し、あの三人とともに名をあげた。

彼は三十人の中で最も誉れが高かったので、彼らの長になったが、あの三人には及ばなかった。

\*将軍ヨアブの兄弟。槍の名手。三十勇士の長。

サウルの陣営に潜入したダビデにも同行。



## 【エホヤダの子ベナヤ】 Ⅱサムエル23:20～23

エホヤダの子ベナヤ\*は、カブツェエル出身で、多くの手柄を立てた力ある人であった。彼はモアブの英雄二人を打ち殺した。また、ある雪の日に、洞穴の中に降りて行って雄獅子を打ち殺した。

彼はまた、例の堂々としたエジプト人を打ち殺した。このエジプト人は、手に槍を持っていた。ベナヤは杖を持ってその男のところの下って行き、エジプト人の手から槍をもぎ取って、その槍で彼を殺した。

\*ベナヤ(=ヤハウエは建てられた)

クレタ人とペレテ人(異邦人部隊)の長(Ⅱ8:18)



## 【エホヤダの子ベナヤ】 II サムエル23:22～23

エホヤダの子ベナヤはこれらのことをして、三勇士とともに名をあげた。

彼はあの三十人の中でも最も誉れが高かったが、あの三人には及ばなかった。ダビデは彼を自分の護衛長にした。

- ベナヤは、ソロモンの命で反逆者アドニヤについてのヨアブを討ち、将軍に任命されている。



## 【アサエル、三十勇士①】 II サムエル23:24～26

ヨアブの兄弟アサエル\*は、例の三十人とともにいた。  
ベツレヘム出身のドドの子エルハナン。  
ハロデ人\*シャンマ。ハロデ人\*エリカ。  
ペレテ人ヘレツ。テコア人イケシュの子イラ\*。

\*俊足。イスラエルvsユダの戦いで、将アブネルを  
執拗に追いかけて、刺し殺された。将ヨアブの兄弟。

\*イズレエル平原。ギデオンの陣営がハロデの泉。

\*イスラエル12分団の第五団長。2万5千人を指揮。





## 【三十勇士②】 II サムエル23:27

アナトテ人(ベニヤミン)アビエゼル。フシャ人メブナイ。アホア八人ツアルモン。ネトファ人マフライ\*。ネトファ人バアナの子ヘレブ。ベニヤミンのギブア\*出身のリバイの子イタイ。

\*イスラエル12分団・第五団長

\*サウルの出身地・王都。ベニヤミンの中心地。

士師時代には、暴虐により一度聖絶されている。



## 【三十勇士③】 II サムエル23:30

ピルアトン人ベナヤ\*。ガアシュの谷\*の出であるヒダイ。アルバト人アビ・アルボン。バルフム人\*アズマウエテ。シャアルビム人エルヤフバとヨナタン、ヤシェンの子たち\*。

\*エフライム族の士師アブドンと同郷。第11団長。

\*ヨシュアの墓地がこの辺り。同郷?!

\*妻ミカルを元夫パルティエルが追って来た地。

\*何人兄弟か不明。「三十勇士」は、民の通称だろう。

➔30人きっかりの親衛部隊があったわけではない。



## 【三十勇士④】 II サムエル23:33～35

ハラル人シャンマ。アラル人シャルルの子アヒアム。マアカ\*人アハスバイの子エリフェレテ。ギロ人アヒトフェル\*の子エリアム。カルメル人\*ヘツライ。アラブ人ペアライ。

\*ヨルダン側東岸

\*自害したアブサロムの参謀アヒトフェルの子!!

\*ユダの荒野。ダビデの妻アビガイルの出身地。



## 【三十勇士⑤】 II サムエル23:36

ツォバ\*出身のナタンの子イグアル。ガド人バニ。  
アンモン人\*ツェレク。ツェルヤの子ヨアブの道具  
持ち\*、ベエロテ人\*ナフライ。

\*北東にいたアラムの一部族(異邦人)か？

\*ヨルダン川東岸に勢力を持っていた異邦人。

\*将軍ヨアブの道具持ち(=側近)。

\*ベエロテ人バアナ、レカブは、イスラエル王  
イシュ・ボシェテを虐殺してダビデに投降したが、  
ダビデに処刑された。➡ベエロテ人は海外逃亡。



## 【三十勇士⑥】 II サムエル23:38～39

エテル人\*イラ。エテル人\*ガレブ。ヒッタイト人  
ウリヤ\*。合計三十七人。

\*ユダ族の一氏族。

\*アブラハムにマクペラの墓地を売った先住民  
ヒッタイトの末裔。イスラエルへの改宗者。

■妻バト・シェバは、ダビデと姦淫を犯し、それを  
知らないウリヤは、最後まで王への忠誠を貫いて  
激戦のただ中で戦死。➡ダビデの差し金だった。





## II. **ダビデの過ち** **神殿の備え** サムエル記II 24章

エルサレム近郊

## 【主の怒り】 Ⅱサムエル24:1～2

さて、再び【主】の怒りがイスラエルに対して燃え上がり、ダビデをそそのかして、彼らに向かわせた。「さあ、イスラエルとユダの人口を数えよ」と。

王はともにいた軍の長ヨアブに言った。「さあ、ダンからベエル・シェバに至るまでのイスラエルの全部族の間を行き巡り、民を登録し、私に民の数を知らせよ。」

\*イスラエルが罪に陥ったということ。

→ここでは神は、ダビデを試し、その失敗の結果としてイスラエルに裁きを下す。



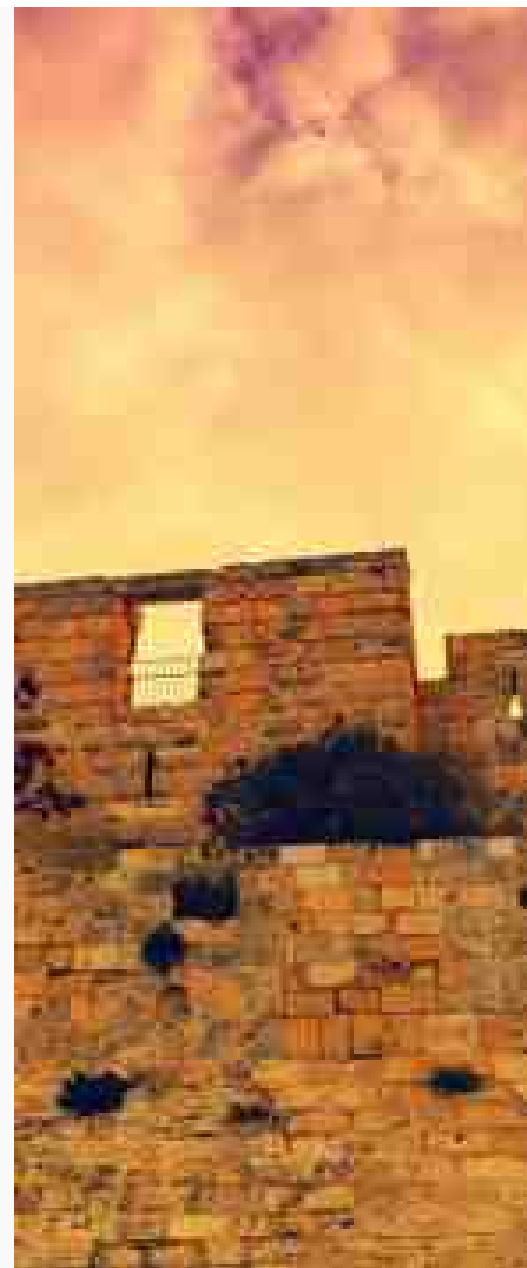
全知全能の  
神ゆえの裁き

## 【ダビデの厳命】 II サムエル24:3～4

ヨアブは王に言った。「あなたの神、【主】が、この民を百倍にも増やしてくださいのように。わが主、王の目が、親しくこれをご覧になりますように。ところで、わが主、王は、なぜこのようなことを望まれるのですか。」

しかし、ヨアブと軍の高官たちへの王のことばは激しかった。ヨアブと軍の高官たちは、イスラエルの民を登録するために王の前から出て行った。

■ヨアブすら、不安を覚えたが、ダビデの命令は非情に厳しく、聞く耳も持たなかった。





## 【調査隊の足取り】 II サムエル24:5～8

彼らはヨルダン川を渡って、ガドの谷の真ん中にある町、ヤゼルに向かって右側にあるアロエルに宿営し、ギルアデとタフティム・ホデシの地に行き、さらにダン・ヤアンに行き、シドンに回った。そしてツ口の要塞に行き、ヒビ人やカナン人のすべての町に行き、ユダのネゲブへ出て行って、ベエル・シェバに至った。

彼らは全土を歩き巡り、九か月と二十日の後にエルサレムに帰って来た。

■ 東、北は、ダビデによって拡張された地域。



## 【調査の結果】 II サムエル24:9~10

ヨアブは兵の登録人数を王に報告した。イスラエルには剣を使う兵士が八十万人\*おり、ユダの兵士は五十万人\*であった。ダビデは、民を数えた後で、良心のとがめを感じた。ダビデは【主】に言った。

「私は、このようなことをして、大きな罪を犯しました。【主】よ、今、このしもべの咎を取り去ってください。私は本当に愚かなことをしました。」

\*計130万人。モーセ、ヨシュアの時代から倍増。

ユダ族は、6.5倍に。概数だけなのは罪の結果ゆえ。

■ 支配欲や物欲が、ダビデの動機、罪。



## 【先見者】 II サムエル24:11～12

朝ダビデが起きると、【主】のことばがダビデの先見者\*である預言者ガドにあった。

「行ってダビデに告げよ。『【主】はこう言われる。わたしはあなたに三つのことを負わせる。そのうちの一つを選べ。わたしはあなたに対してそれを行う。』」

\*王の助言者。神の預言をもってサポートした。



## 【三つの選択】 II サムエル24:13

ガドはダビデのもとに行き、彼に告げた。「**①**七年間の**飢饉**が、あなたの国に来るのがよいか。**②**3か月間、あなたが**敵の前を逃げ**、敵があなたを追うのがよいか。**③**三日間、あなたの国に**疫病**があるのがよいか。今、よく考えて、私を遣わされた方に何と答えたらよいかを決めなさい。」

**①**→**②**→**③**と、帰還が短いほど苛烈で厳しい裁き



## 【ダビデの選択】 II サムエル24:14~15

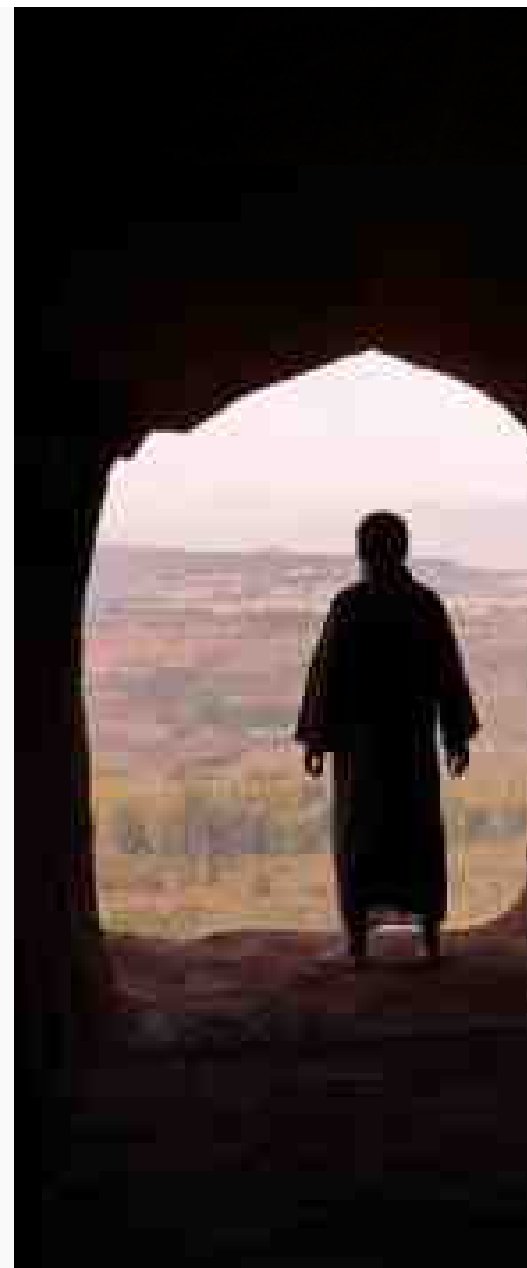
ダビデはガドに言った。「それは私には非常に辛いことです。【主】の手に陥らせてください。主のあわれみは深いからです。私が人の手には陥らないようにしてください。」

【主】は、その朝から定められた時まで、イスラエルに疫病を下された。ダンからベエル・シェバに至るまで、民のうち七万人が死んだ。

■ダビデが望んだのは、主の手による直接の裁き。

最も厳しく、苛烈な結果をもたらすもの。

➡人の手でなく神の手で裁かれないという信仰。



## 【ダビデのとりなし】 II サムエル24:16~17

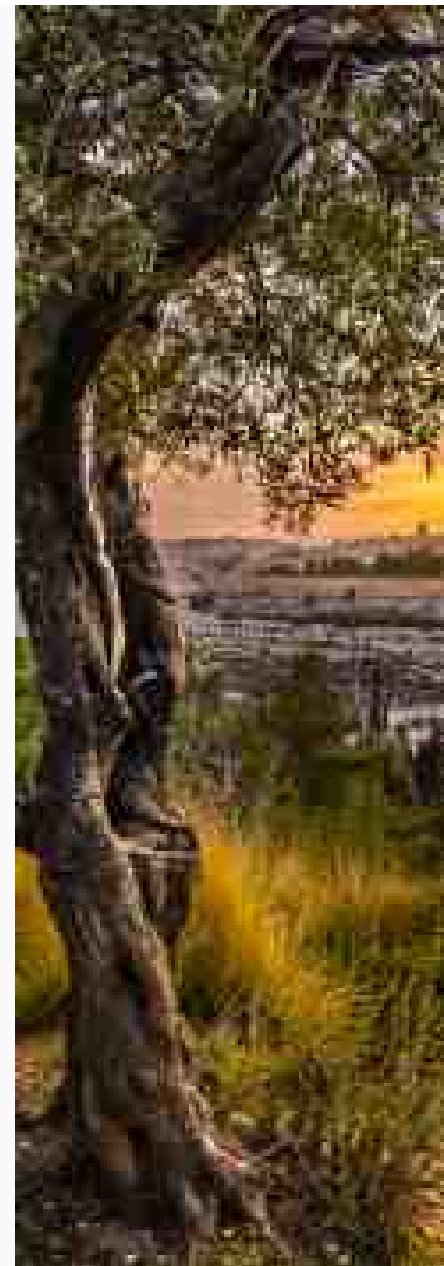
御使いは、エルサレムを滅ぼそうと手を伸ばした。

【主】はわざわいを下すことを思い直し、民を滅ぼす御使いに言われた。「もう十分だ。手を引け。」【主】の使いは、エブス人アラウナの打ち場の傍らにいた。

ダビデは、民を打っている御使いを見たとき、【主】に言った。「ご覧ください。この私に罪があるのです。私が悪いことをしたのです。この羊の群れがいったい何をしたのでしょうか。どうか、あなたの御手が、私と私の父の家に下りますように。」

■エルサレムに災厄が及ぶ寸前で神は手を止めた。

➔ダビデの必死のとりなしに、主は応えられた。



## 【エブス人アラウナ】 Ⅱ サムエル24:18～20

その日、ガドはダビデのところに来て、彼に言った。  
「上って行って、エブス人\*アラウナの打ち場\*に、  
【主】のために祭壇を築きなさい。」

ダビデは、ガドのことばにしたがって、【主】が命じられたとおりに上って行った。

アラウナが見下ろすと、王とその家来たちが自分の方に進んで来るのが見えた。アラウナは出て行き、地にひれ伏して、王に礼をした。

\*エルサレムの先住の民。アラウナ(= 歓喜する)

\*麦の脱穀、選別をするところ。

アラウナの打ち場  
(モリア山)



宮殿

キデロンの谷



## 【交渉】 II サムエル24:21～22

アラウナは言った。「なぜ、わが主、王は、しもべのところにおいでになったのですか。」ダビデは言った。「あなたの打ち場を買って、【主】のために祭壇を築きたい。そうすれば民への主の罰は終わるだろう。」

アラウナはダビデに言った。「わが主、王よ。お気に召す物を取って、お献げください。ご覧ください。ここに全焼のささげ物のための牛がいます。薪にできる打穀機や牛の用具もあります。」

■ 中東流の交渉の開始。本来は長い時間が必要。





## 【買い取り】 II サムエル24:23～24

王よ、このアラウナはすべてを王に差し上げます。」  
アラウナはさらに王に言った。「あなたの神、【主】  
が、あなたを受け入れてくださいますように。」

しかし王はアラウナに言った。「いや、私は代金を  
払って、あなたから買いたい。費用もかけずに、私の  
神、【主】に全焼のささげ物を献げたくはない。」そ  
してダビデは、打ち場と牛を銀五十シェケル\*で買った。

\* I 歴21:25では、金600シェケル。➡総額だろう。

あるいは、手付金と本払いか。

(※アブラハムは銀300シェケルで墓地を購入)



## 【裁きの終わり】 IIサムエル24:25

ダビデは、そこに【主】のために祭壇を築き、全焼のささげ物と交わりのいけにえを献げた。  
【主】が、この国のための祈りに心を動かされたので、イスラエルへの主の罰は終わった。

- かつてアブラハムがイサクを献げた地に、ダビデは、イスラエルの罪のとりなしのためこの地を買い、犠牲をささげた。

**エルサレムで十字架に身を捧げ  
真実の贖いを成し遂げるのはメシア**



### III. **ダビデの最後の言葉**    サムエル記Ⅱ 23章1～7節



## 【ダビデによる最後の啓示】 II サムエル23:1

これは**ダビデの最後のことば\***である。エッサイの子ダビデの告げたことば。いと高き方によって**①上げられた者**、ヤコブの神に**②油注がれた者**の告げたことば。イスラエルの歌の**③歌い手**。

\*ダビデを通して与えられた最後の啓示。

■ダビデの担った三つの役割

- ①祭司(神と人との仲介者という意味での)
- ②王
- ③賛歌の歌い手



## 【主の靈に満たされて】 II サムエル23:2~3

「**①【主】の靈**は私を通して語り、そのことばは私の舌の上にある\*。

**②イスラエルの神**は仰せられた。**③イスラエルの岩\***は私に語られた。

\*ダビデが詩篇を歌いながら体験していたこと。

→詩篇は、神の靈による言葉。預言。

\*岩…メシアの象徴。

■**①聖靈、②父なる神、③子なる神** …三位一体!!

→三位一体の神がダビデを通して語られた!!



## 【メシアの影】 II サムエル23:3~4

『義をもって人を治める者、神を恐れて治める者。その者は、太陽が昇る朝の光、雲一つない朝の光のようだ。雨の後に、地の若草を照らす光のようだ。』

■ ダビデが歌っているのは自分自身のことではなく、  
→ その裔に主が約束された、真実の王、メシア。

■ 重なるのは、主イエス・キリストの生涯。

イザヤ42:1 「見よ。わたしが支えるわたしのしもべ、わたしの心が喜ぶ、わたしの選んだ者。わたしは彼の上にわたしの霊を授け、彼は国々にさばきを行う。」



## 【ダビデ契約に基づく恵み】 Ⅱサムエル23:5

まことに私の家は、このように神とともにある。神が永遠の契約\*を私と立てられたからだ。それは、すべてのことにおいて備えられ、また守られる。神は、私の救いと願いを、すべて育んでくださるではないか。

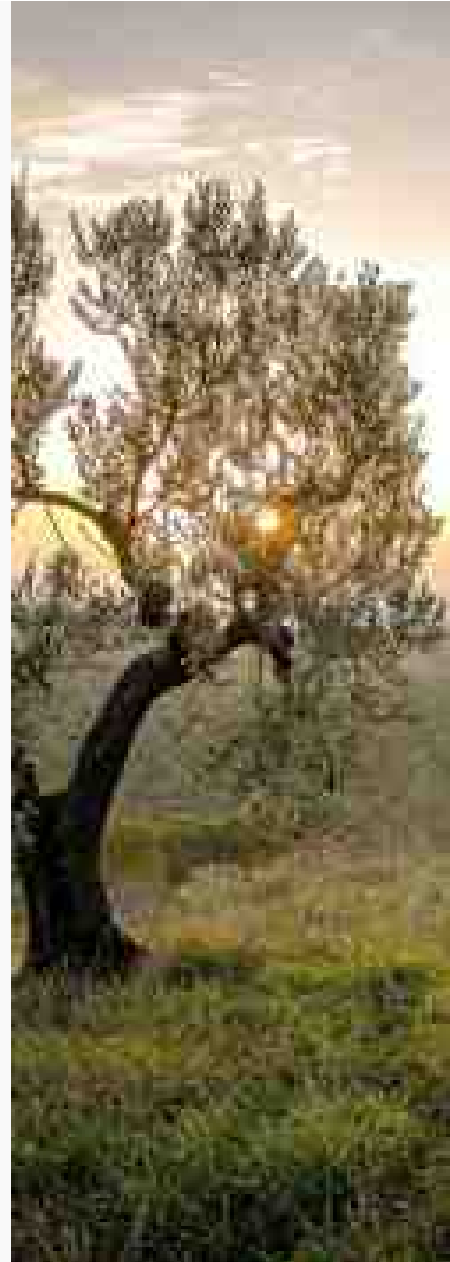
\*ダビデ契約(Ⅱサム7:11~16、Ⅰ歴17:10~14)

■ダビデへの神の三つの約束

→ダビデの①王家、②王国、③王座を永遠に守る。

→ダビデの裔に表れるメシアが、

永遠の王国の永遠の王座に就く。

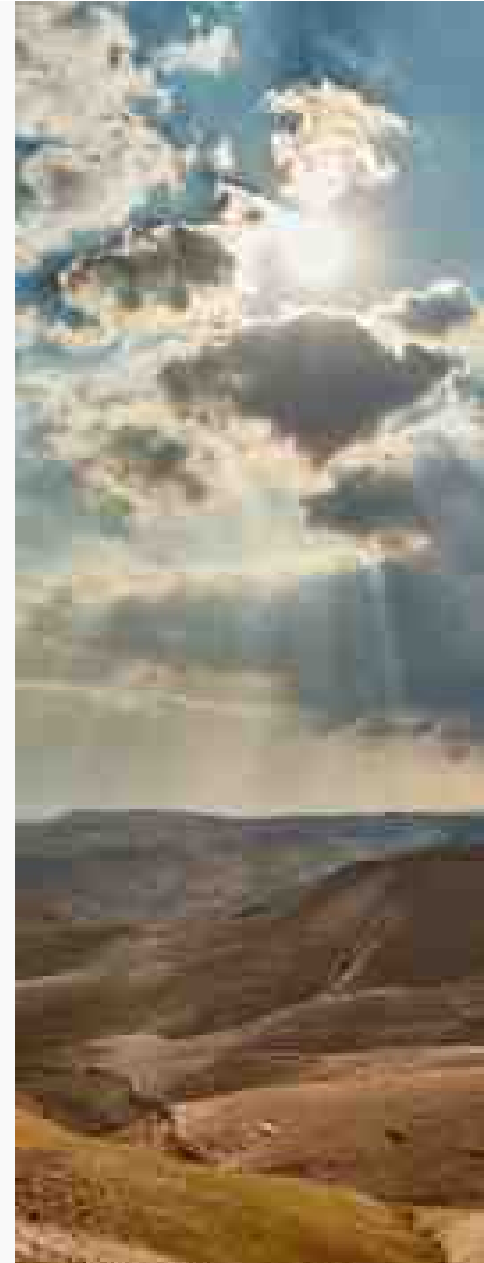


## 【神の裁き】 II サムエル23:6~7

「よこしまな者たちはみな、根こそぎにされた茨のようだ。それらは手に取ることができない。

彼らを打つ者はだれも、槍の刃や柄で武装する。彼らはその場で、火で焼き尽くされる。」

- ダビデの詩篇でも繰り返される神の敵対者の裁き。  
➡ 究極的には、世の終わりにメシアによる裁きが。







聖書朗読 サムエル記第二 23章1～7節

23:1 これはダビデの最後のことばである。

エッサイの子ダビデの告げたことば。

いと高き方によって上げられた者、  
ヤコブの神に油注がれた者の告げたことば。

イスラエルの歌の歌い手。

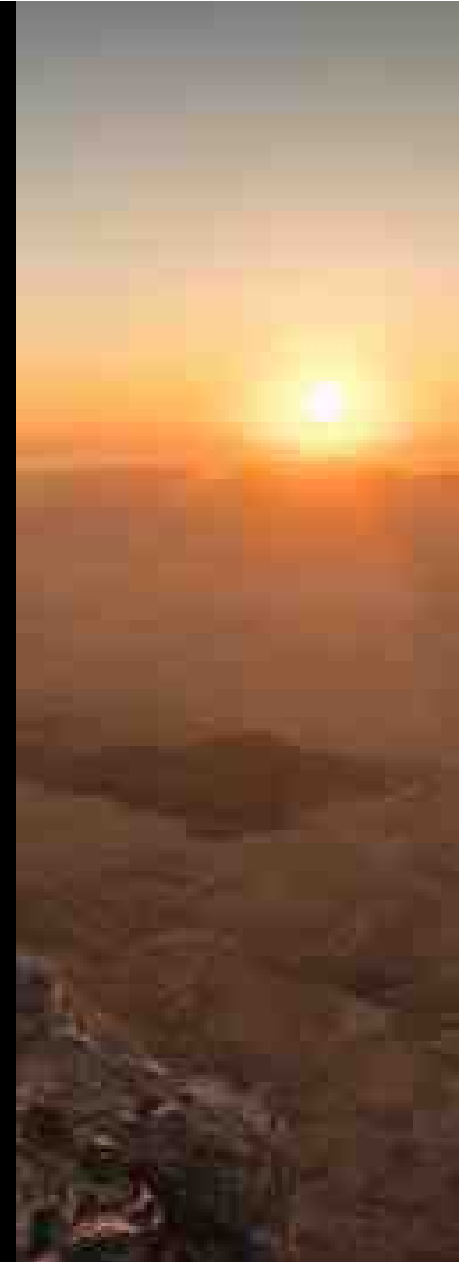


23:2 「【主】の霊は私を通して語り、  
そのことばは私の舌の上にある。

23:3 イスラエルの神は仰せられた。  
イスラエルの岩は私に語られた。

『義をもって人を治める者、神を恐れて治める者。

23:4 その者は、太陽が昇る朝の光、  
雲一つない朝の光のようだ。  
雨の後に、地の若草を照らす光のようだ。』



23:5 まことに私の家は、このように神とともにある。  
神が永遠の契約を私と立てられたからだ。  
それは、すべてのことにおいて備えられ、  
また守られる。  
神は、私の救いと願いを、  
すべて育んでくださるではないか。



23:6 よこしまな者たちはみな、

根こそぎにされた茨のようだ。

それらは手に取ることができない。

23:7 彼らを打つ者はだれも、槍の刃や柄で武装する。

彼らはその場で、火で焼き尽くされる。」





#### IV. まとめと適用

覚悟して神の愛を味わい尽くそう

## 【ダビデの信仰者の歩みの重みを味わい知ろう】

- ダビデの名の意味は、“愛されている者”
- 苦難と試練の中でも、罪の刈り取りの中でも、ひたすら主の愛を味わい尽くした人、それがダビデだった。
- ダビデが主に献げた賛歌は、全身全霊で神の愛を歌った歌。
- 私たちは、ダビデほどに、主の愛を味わい尽くしているだろうか。うまくいっている時も、つまづき倒れている時も、人生の谷間にも、一つの峰の頂に立たせられた時にも。

**ダビデのように、主の愛だけを、追い求め、味わい尽くそう。**

## 【ダビデが知らされた神の愛】

- 主は、貧しい羊飼いの末のダビデを一方的に、**王**として選ばれた。
- その選びのゆえに、荒野をさまよう**厳しい試練**が与えられた。
- 一方的な**恵みの契約**として、永遠の王座、王国、王家が約束された。
- 王の権威を悪用して犯した大罪に、**厳しい刈り取り**が下された。
- 民をとりなし祈る中、真実の贖い主、**メシアの影**を感じ取った。

**愛する子を訓練し、約束の上に導き、成長させる神の愛**



## 【主が私に注がれている愛を知ろう】

- 叱らない親は子を愛していない。ねたみのない夫婦に愛はない。主は私たちを愛するゆえ、背きをねたみ、試練を与える。
- 信仰者の成長とは、より深く神の愛を味わい知らされていくこと。試練や苦難、自ら招いたつまずきの闇の中にも注がれる愛がある。
- 主はただ、福音の約束ゆえに、私たちを愛された。これは永遠の愛。決して離れることのない神の愛が、私たちに追い迫り続ける。信仰者の誰も、神の愛から逃げおおせる道はない。

**覚悟と決意をもって、永遠にして無限なる神の愛を味わい知ろう**

「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、

①わたしの罪(つみ)を贖(あがなう)うために十字架で死に、

②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活(ふっかつ)したことを信じます。

丘(おか)の上でも闇(やみ)の谷(たに)でも、ダビデの生涯(しょうがい)のすべてにおいて、注(そそ)がれ続けた主の愛がありました。

主よ、あなたの愛から逃(のが)れる道などありません。

たとえ罪の深(ふか)い闇(やみ)に陥(おちい)ったときにも、あなたは、わたしを追(お)ってこられます。ダビデのように、覚悟(かくご)を

もって、主の愛を味(あじ)わい知るものとしてください。

すべての感情(かんじょう)も思いも 打(う)ち砕(くだ)き、

突(つ)き破(やぶ)り、主に満(み)たされるよろこびで満(み)たしてください。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」